

特42

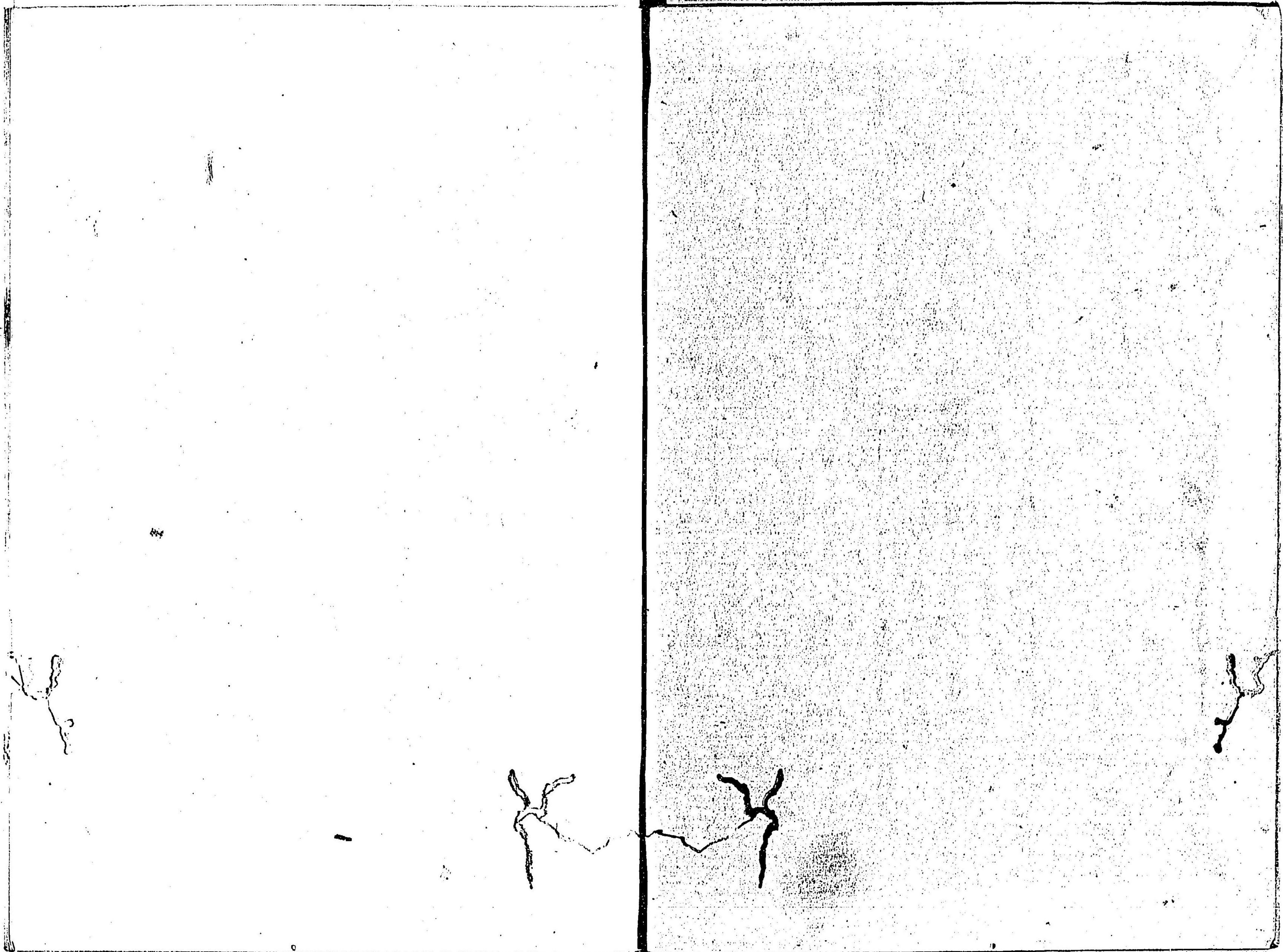
442

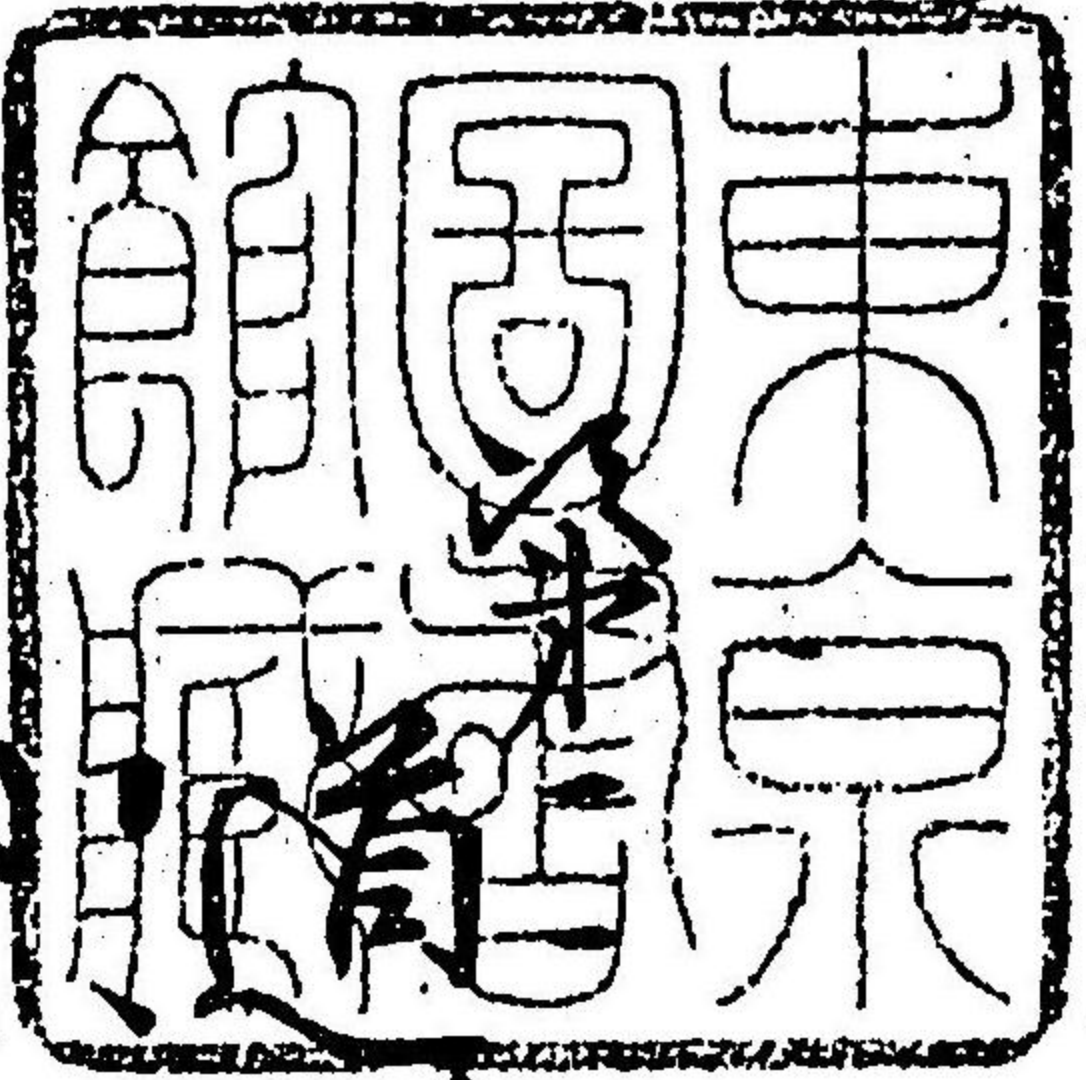
吳服
ハ考
鶴袴小町
葛城
當麻

士

東 京 圖 書 館

二 二 冊	二 號	四 七 架	函	音 樂 類	和 書 門
-------------	--------	-------------	---	-------------	-------------





吳服

此みちたる時どてわぐ國

のり成賢^保松身き當今うま

仕へちる片下也新此回き朽

別佳よしよ美防やては又是

より浦傳ひし西の宮よ事らり也

と存^ヤ位^カ江^カ長^カ用^カ浪^カの^カあり

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、
 十一、
 十二、
 十三、
 十四、
 十五、
 十六、
 十七、
 十八、
 十九、
 二十、
 二十一、
 二十二、
 二十三、
 二十四、
 二十五、
 二十六、
 二十七、
 二十八、
 二十九、
 三十、

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、
 十一、
 十二、
 十三、
 十四、
 十五、
 十六、
 十七、
 十八、
 十九、
 二十、
 二十一、
 二十二、
 二十三、
 二十四、
 二十五、
 二十六、
 二十七、
 二十八、
 二十九、
 三十、

此のあまたくどい敷島の着せいで
 言の葉草の元位もあつらうまあ
 色入してのやうくせうはゆの由
 きたなるがけく^{半角}
 我此松慮のなまらむと
 性二人あつと人々もあつと
 人のあつとあつとあつと

^{ニ合上}
 父給る人もあつと人々
 取もあつとあつとあつと
 ちのうら月の影もあつとあつと
 浪の音もあつとあつとあつと
 一とあつとあつとあつとあつと
 行つとあつとあつとあつと
 里あつとあつとあつとあつと

織給ハ不審ありカヤ模名ヲ舞ハ給ニ
 してシテ此レもハ天皇乃由ニ也
 也ハ云々ト織ル也ハ吳服ト也
 也ハ云々ト申ス二人ノ者ト又
 也ハたハ代ハ現ハありシ也
半信也ハ云々ト也ハ云々ト
 也ハ昔ハ云々ト唐國ノもハ織

二人ノ人ハありシと現
 在ハ影ハ給ハ付ハたりシ也ハ云々ト
三河也ハ云々ト給ハおハ云々ト也
 吳羽ハ云々ト也ハ云々ト
 我ハ此レ可ハ有ハしシ也ハ云々ト
 也ハ云々ト也ハ云々ト也ハ云々ト
 也ハ云々ト也ハ云々ト也ハ云々ト

うめてせ工乃おむさしとあさあり
ミサシ
 志うぬ又非功皇后三韓と志る人給
 ひより和國異朝は道ひりくざと
 の國をなほく世乃我目の本すは長閑
 ある世代の老ハあゆ移くて國をん
 たまひのちなり
トシテ 東南雲活りく
トシテ 西より静まりく
 應神天皇の御宇

かよ吳國の勅使此國よ初てなり給
 ひよあやめりめ乃女婦とさう入萬
 里の餘波と志るまきて西日歌あり
 あく吳羽乃谷下まよせしひきし月よき
 つるさくおのまがきと織くれ綾の作
 衣とちの勅使奏給るる一かハ數感
 こよみとあしりくさうまじりの名付つ

上地

此悉乃^{上地}グーは^上母^上と^上夕^上浪^上よ^上志^上した
 くそ^上め^上ざ^上ん^上の^上音^上 錦^上と^上織^上た^上お
 れ^上う^上ら^上ば^上ら^上の^上字^上と^上あ^上ら^上う^上衣^上を
 つ^上恐^上の^上う^上ら^上よ^上悉^上お^上乃^上拜^上松^上の^上ゆ^上又
 き^上い^上う^上う^上浪^上の^上ま^上 志^上ま^上ら^上よ^上し^上海^上
 あ^上ま^上ら^上い^上も^上の^上啓^上と^上る^上や^上鳥^上乃^上手^上く
 里^上乃^上いと^上 神^上と^上る^上あ^上お^上き^上 志^上ま^上ら^上

乃^上新^上地^上も^上地^上は^上ら^上た^上ら^上ち^上あ^上ら^上う
 ま^上ら^上う^上を^上た^上ら^上ち^上あ^上ら^上く^上と^上壺^上悪^上魔^上
 も^上お^上ら^上い^上お^上へ^上ま^上口^上あ^上ま^上ら^上お^上ま^上ら^上ひ
 め^上乃^上油^上り^上ら^上う^上て^上 思^上の^上出^上ら^上り
 織^上女^上乃^上く^上だ^上ま^上く^上あ^上ら^上家^上様^上の^上
 乃^上精^上霊^上妙^上童^上美^上薩^上も^上影^上向^上か
 里^上乃^上お^上ら^上す^上ら^上う^上ら^上よ^上ら^上ら^上た^上ら^上う^上

乃あやを御たきく我君よりき
 きのみよりきあし二人の御姫
 是羽あやのさうくよんれもあや
 きのあやしくあしあやあや
 御代よりあてたまれ

一、鴻

第

月を南に海原をく鴻乃浦

式事母 甲白 是ハ都方よりあさ

僧より新米四圍をまの公程よ

此度思の立西國行路をふらふ

ウヤ 雲霞 ウヤ 浪乃たふあやあ

づの日の雲も影よりて其あかの

と行路よりくつし 舟路へて 鴻
の浦よ 志あきりく 意は 程よ 是の 也

讃岐の國の 鴻の浦よ 志あきりて 舟路の
志あきりて 舟路の 志あきりて 舟路の
面白や 月海
上より 舟路の 志あきりて 舟路の
漁翁よ 志あきりて 舟路の 志あきりて 舟路の

湘水を 舟路の 志あきりて 舟路の
志あきりて 舟路の 志あきりて 舟路の
おとこ 舟路の 志あきりて 舟路の
震の 志あきりて 舟路の 志あきりて 舟路の
舟路の 志あきりて 舟路の 志あきりて 舟路の
舟路の 志あきりて 舟路の 志あきりて 舟路の
舟路の 志あきりて 舟路の 志あきりて 舟路の

と行路よりつらく明へ毎路へては鳴
の浦よるるをきりて急行よるはたわ

讃岐の國の鳴の浦よるるをきりては目乃

きりては目乃は是の堀屋よるるをきりては

明さるやと思ふる 面白や月海

よるるをきりては目乃は是の堀屋よるるを

漁翁よるるをきりては目乃は是の堀屋よるるを

湘水をゆくと藝行をたぐも今よ
志らして暮次の陰ほみりし
おとこらよ 月のお堀のたぐも
震のさよひのうらみ ありまの
声のさよひのうらみ ありまの
道が一帆の風よるる 夕の雲乃
やの浪月れ行はよるる ありまの

ふ松原の陸ハ緑きうらひて海鳥
ききもききぬひた境業の海鳥
かきくウ愛さ、鳩の浦つふし海鳥
家方もねくよウ釣上の魚もなま
うらぐ。震つらうて仲々もあま
かきくはうかきくはうかきくはうかきくはう
同様に松原の海鳥もねくはう

出出の増増の葉葉の葉葉の葉葉
増増の葉葉の葉葉の葉葉

葉葉の葉葉の葉葉の葉葉
諸國諸國

一見僧よてふ一夜の富富は
皆はゆへまよ其由其由の富富は

作徳由一見僧の富富は

見者も苦もいふ人見者
 程も宿の事もいふ人見者
 乃ちいふ人見者いふ人
 程もいふ人見者いふ人
 見者も苦もいふ人見者
 方人者もいふ人見者
 乃ちいふ人見者いふ人

中人見者いふ人見者
 様人の事いふ人見者
 平の一夜といふ人見者
 都の人見者いふ人見者
 乃ちいふ人見者いふ人
 乃ちいふ人見者いふ人
 乃ちいふ人見者いふ人
 乃ちいふ人見者いふ人
 乃ちいふ人見者いふ人
 乃ちいふ人見者いふ人

うら出の軍を將軍の法出立の赤
地の錦めしつたよ紫とこの御
着宵鐘をうらうらにらよりの立あ
るう一院の使密のたお指非違
使五位の尉源義経がも業餘り
はこつうのあつたを將中とみー今
のちもいももたてい いかに ちを平家
の

方よりも言葉戦ひくと終共舟一艘
漕ぎよきしはつちよらうあつて
陸のさしむと侍舞 下 源平の才

うらつた共五十騎計中よもえとの
わの甲冑と名乗てとらえとまきてみえ
一 源 平家の才の要七兵衛
景清とらえとたつちよらうあつて

拜もま行しつてのわく松うねれり
 もましく思ひさのしむ昔しりり堂て
 受をゆ方りりく 後上 落花枝よ
 かくし取鏡さしてし照さしひ影を
 取執りさしめとくしきく魂魄の境界
 ようりり神し世ささ昔しめく修羅
 のちまじよりりり取の素もささり

葉岡ハエノバノ「ハもハお早曉もも成り
 後と思ひ寝さのれより甲冑と等
 しめし吟より多判官あくまへ成り
 新義経の悲おあるか真恵より
 妄執もくわ西海は良よたよりひま死
 の海よ沈輪さり 早愚やあひり社
 生死の海なるも影さつ虫の月乃

雲の夜あけと曇たしむる
 今宵の空 昔より思ひあは
 舟と陸との合戦の音 可かきと
 忘れえぬ 昔の鳩よかき月
 弓の音の味くぬよ味くぬ
 死の海と生の海とを結ぶ鳩の

恨めしき心よかくよ執心はつる海
 海とよよ愛物かきりかありく
 思ひあはと肩浮り故郷よあはく
 久しき年あまのよりの存あちよあ
 ひまて終る音のちかきとあり
 思ひあはる昔の月よあはり
 久しき年あまのよりの存あちよあ

ひよ夫を花の由ら馬となん
 て打られく^{中一}あまの^{中一}ついでに
 して責鞭^下の^下具^下時^下行^下か^下る^下り
 きん判官らと名打り^上後よかれ
 て^上備^上よ^上具^上材^上一^上も^上一^上境^上の^上境^上
 敵^上よ^上ら^上と^上敵^上よ^上ら^上と
 や^上ら^上と^上馬^上と^上浪^上の^上よ^上ら^上と^上ま^上き^上と^上敵^上

船く^上助^上の^上福^上よ^上敵^上の^上思^上と^上ら^上ん
 ありも^上船^上と^上よ^上せ^上無^上手^上よ^上か^上ま^上と^上既^上よ^上あ
 かり^上み^上と^上給^上ひ^上よ^上し^上事^上を^上あ^上て
 を^上切^上松^上ひ^上終^上よ^上ら^上と^上夜^上一^上と^上本^上れ^上者^上よ
 打^上あ^上り^上れ^上具^上時^上兼^上房^上や^上り^上情^上
 乃^上は^上あ^上る^上舞^上や^上あ^上渡^上鳥^上と^上く^上景^上時^上り^上や
 一^上と^上是^上も^上と^上狂^上く^上言^上ひ^上と^上今^上も^上と^上の^上人^上

公存ため行^{イロ}まぬ^{イロ}命^{イロ}あられ^{イロ}
 捨^{イロ}く社^{イロ}後^{イロ}記^{イロ}う^{イロ}魂^{イロ}佳^{イロ}り^{イロ}あ^{イロ}を^{イロ}あ^{イロ}く^{イロ}母^{イロ}入^{イロ}
 き^{イロ}ゆ^{イロ}筆^{イロ}れ^{イロ}あ^{イロ}と^{イロ}あ^{イロ}く^{イロ}ま^{イロ}れ^{イロ}又^{イロ}海^{イロ}を^{イロ}
 道^{イロ}れ^{イロ}ま^{イロ}の^{イロ}聲^{イロ}夫^{イロ}あ^{イロ}ま^{イロ}じ^{イロ}の^{イロ}音^{イロ}
 志^{イロ}ん^{イロ}ま^{イロ}る^{イロ}ま^{イロ}の^{イロ}志^{イロ}力^{イロ}ら^{イロ}の^{イロ}敵^{イロ}
 だ^{イロ}そ^{イロ}あ^{イロ}し^{イロ}能^{イロ}登^{イロ}身^{イロ}教^{イロ}經^{イロ}も^{イロ}甚^{イロ}む^{イロ}
 も^{イロ}手^{イロ}あ^{イロ}ら^{イロ}ま^{イロ}る^{イロ}の^{イロ}無^{イロ}ら^{イロ}う^{イロ}あ^{イロ}ら^{イロ}ん

女^{イロ}浦^{イロ}の^{イロ}其^{イロ}も^{イロ}の^{イロ}軍^{イロ}今^{イロ}を^{イロ}わ^{イロ}く
 閣^{イロ}下^{イロ}の^{イロ}あ^{イロ}ら^{イロ}ま^{イロ}の^{イロ}海^{イロ}山^{イロ}一^{イロ}回^{イロ}よ
 震^{イロ}動^{イロ}し^{イロ}た^{イロ}毎^{イロ}ら^{イロ}う^{イロ}の^{イロ}ま^{イロ}陸^{イロ}よ^{イロ}
 波^{イロ}た^{イロ}た^{イロ}く^{イロ}月^{イロ}ま^{イロ}ま^{イロ}の^{イロ}叙^{イロ}乃^{イロ}
 多^{イロ}り^{イロ}の^{イロ}あ^{イロ}ら^{イロ}ま^{イロ}の^{イロ}あ^{イロ}ら^{イロ}ま^{イロ}
 皇^{イロ}の^{イロ}あ^{イロ}ら^{イロ}ま^{イロ}の^{イロ}あ^{イロ}ら^{イロ}ま^{イロ}
 雲^{イロ}の^{イロ}あ^{イロ}ら^{イロ}ま^{イロ}の^{イロ}あ^{イロ}ら^{イロ}ま^{イロ}

寺にありては百年の姥と成る園寺
 邊より方より一室を及む帝より法
 憐乃は平ととくはまき其を三よ
 ようがきぬて題をトとくまの宜
 育よ何とせむと南寺邊小野小町の方
 下とあるの 一室を及む我の邦より
 松坂や宮の官行原よりたはくはま

びつのもぢまゝあゝ 昔は美談答乃
 花たよりあはれ今ハ藜藿の葉
 とある程をせむきすいとたころ入だ
 之も凍葉のあはれも杖つゝあ
 へか方もなへ人を恨むをちちあ
 ひつりもあはれもかぬを相親と人
 上葉
 きりやちりつゝたの松ぬ命の字よそ

春うすき みるく 尺八 だんご ちま

ゆき 積よ 家白 ぶら 花う

み せ ぎ ころも 白ひ 松よ

花 ちり ぐ ちり 詩よ ぎ 雲 ね 文 書

面 白 せ ぎ ころも 白ひ 湖の

志 賀 ころも 白ひ 松よ 湖の

あ ぶ ね 東よ 向 へ 方 秘 や 名 ち ま の

観 世 音 ぎ ころも 白ひ 橋 ね 人 の

あ ぶ 命 の ち ち ね たり なる し

かく せ ね び ね び ね び ね び ね び

志 せ ぎ ころも 白ひ 松よ 湖の

な ね 杖 よ す ころも 都 路 よ ち ち ね

ふ ぎ ころも 白ひ 松よ 湖の 開 寺 よ 歸 寺 よ

あ ぶ ね 小 町 梅 今 ち ち ね なる し

徳一カヨシクシテ其ノ徳ニシテ

と云ふ時ハ甲ノ如ク大なる事

あり 甲 相ノ如ク大なる事

や 上 徳 上 徳 上 徳

此等ノ様ニシテ其ノ徳ノ様ニシテ

と云ふ事ニシテ其ノ徳ノ様ニシテ

と云ふ事ニシテ其ノ徳ノ様ニシテ

位ニシテ其ノ徳ノ様ニシテ

徳ニシテ其ノ徳ノ様ニシテ

徳ニシテ其ノ徳ノ様ニシテ

徳ニシテ其ノ徳ノ様ニシテ

徳ニシテ其ノ徳ノ様ニシテ

徳ニシテ其ノ徳ノ様ニシテ

徳ニシテ其ノ徳ノ様ニシテ

徳ニシテ其ノ徳ノ様ニシテ

ぼてぎの花とつらつられ花雨花

ねね柳柳髪髪何何またまたささややありあり紫紫箒箒

ささささううここままほほりり梨梨花花らら石石ののええ

ゆゆかかとと今今煙煙瘴瘴ととねねららふふわわてて志志とと

てていい志志方方りりささるる小小町町ささるるささなりなりるる

めめららふふ小小町町紫紫箒箒玉玉律律鳩鳩ささくく法法樂樂のの

舞舞ととままああひひふふ入入ねねもも紫紫箒箒玉玉律律

ゆゆままららつつゆゆままららつつゆゆままららつつゆゆままららつつゆゆままららつつ

和和多多吹吹上上よよららりりゆゆ律律鳩鳩よよ

ままららららつつややくく紫紫箒箒平平のの跡跡ねね袖袖思思のの

めめららららつつままららつつままららつつままららつつままららつつままららつつ

熨熨斗斗紋紋ののささららぬぬららるるささららぬぬららるるささららぬぬららるる

其の志ありやあらまきつ地 和光の心
 かりまづま地 ぬら地の袖やあま
 う舞の浦よ志原原みくられし
 かま浪の地 多しをりて田
 鶴あまわらむ言下 かのくも
 よあまのひねのたる名もよ
 しちやまのひの月あまてし

上たれうてま上の下もまも人乃
上若や地なむ下の地 かく地まもわ
 まきろのひまの上か入ま下ぬ
 あらひとま上の下あ上の下あ下恋
上し下の上あ下か下く下て此目も書
 ゆ上ま下ま下ら下か下り下て行家教
 子婦上ま下て下小町も下あ下ま下し下

山を多登りて、其の程なく大和路を
葛城山を登りて、早白急な向

山あり葛城山を登りて、其の程なく大和路を

山あり葛城山を登りて、其の程なく大和路を

山あり葛城山を登りて、其の程なく大和路を

山あり葛城山を登りて、其の程なく大和路を

山あり葛城山を登りて、其の程なく大和路を

山あり葛城山を登りて、其の程なく大和路を

山あり葛城山を登りて、其の程なく大和路を

山あり葛城山を登りて、其の程なく大和路を

山あり葛城山を登りて、其の程なく大和路を

山あり葛城山を登りて、其の程なく大和路を

山あり葛城山を登りて、其の程なく大和路を

山あり葛城山を登りて、其の程なく大和路を

世に於ては言はれぬ梅の香も

尊なる心は古くも尊なる名も

是れをいふは人の心は

心は人の心は人の心は

心は人の心は人の心は

心は人の心は人の心は

思ふは人の心は人の心は

大和舞の神の雲もよしの由の
のこぎもよしの由の
登りて煙をくえりてたふよ
うへてあつたよ
さる稲妻の山は
さる世守の電は
のまはる人

かゝるまじき御座り候へば

しるまじき御座り候へば

あつては三輪の御座り候へば

いふまじき御座り候へば

三輪の御座り候へば

あつては三輪の御座り候へば

いふまじき御座り候へば

あつては三輪の御座り候へば

いふまじき御座り候へば

あつては三輪の御座り候へば

いふまじき御座り候へば

あつては三輪の御座り候へば

いふまじき御座り候へば

あつては三輪の御座り候へば

繁戸のうら 月家ちひ ぬくぬく
乃神よ五裏のくぬ 三あや物重
かあてていひぬく 岩橋のしん勝絶く
神のしん ありあきま
岩橋の昔の衣の袖入て けの
選りよとんは法味とあてよ
は首城の神よりあひの行ひ色深て

一ノ教れ 神首城のよすもし和
光乃教ありらたて 五裏の眼と無上
毎々の月ほま 法持美あつ寶の
山は味よちくあつひく
勸めたりま せむあき
山は常陰のあ 務の神のあき
玉乃羊とあつあつあきあきあき

尊尊女のまじりまじりへお忌後女 見
 不登女の目まじりまじりへお忌後女 見
 まじり甲 程三熱の神女まじり 年
 少敷甲 志上まじり 香城山の
 岩橋女のまじりまじりへお忌後女 見
 志女まじり神祇のまじりまじりへお忌後女 見
 の神女まじりまじりへお忌後女 見

まじりまじりへお忌後女 見
 尊尊女のまじりまじりへお忌後女 見
 不登女の目まじりまじりへお忌後女 見
 まじり甲 程三熱の神女まじり 年
 少敷甲 志上まじり 香城山の
 岩橋女のまじりまじりへお忌後女 見
 志女まじり神祇のまじりまじりへお忌後女 見
 の神女まじりまじりへお忌後女 見

様うらまの神の身くらたきあ
 夢とさゆかきうのうも清まも何上
 毛ゆぬるもまぬさたもあつら
 の明無さたも善城の船戸
 入る家もつらよ入る

當摩

教へう新ま法のかどくひら
 道よあつよ甲行見へ念家の行者あつ
 我此度三熊野よまり。下向道よ執
 了作又見より大和路かろ。當摩
 此古寺よまらも思のまや程もあ
 くゆり記の路の閉してサく。も三

の晴ゆる雨あつ身の敷き
 ぎぬむらびやくもや西の計頼む
 多も海あつていづれも
 終コトの末の世ヤまの我らか為ならむ
 上ヤも終ヤは法ヤの是ヤう一書ヤのヤくヤぞ
 若ヤと頼ヤまの末ヤの法ヤ萬年ヤく
 づるはの經ヤの法ヤのよもあヤきたまヤく

此ニの法ヤの場ヤまの是ヤなる旁ヤの事ヤ人ヤまの
 明ニの法ヤの場ヤまの
 ありは法ヤの場ヤまの
 是ニなる旁ヤの事ヤ人ヤまの
 是ニは當ヤ麻ヤの法ヤ寺ヤあヤく
 此ニの法ヤの場ヤまの是ヤなる旁ヤの事ヤ人ヤまの
 明ニの法ヤの場ヤまの
 ありは法ヤの場ヤまの
 是ニなる旁ヤの事ヤ人ヤまの
 是ニは當ヤ麻ヤの法ヤ寺ヤあヤく

一、^テまき清く人々の^甲の^四樹を
 二、^テほく^{上高}ひらく^{上高}の^{上高}きく^{上高}樹し
 三、^テ運め^{上高}く^{上高}花の錦乃^{上高}そ^{上高}ぬまよ
 四、^テ雲の^{上高}た^{上高}廣^{上高}の^{上高}晴^{上高}曇^{上高}る^{上高}も^{上高}緑^{上高}も^{上高}紅^{上高}も
 五、^テ一^{上高}青^{上高}の^{上高}誘^{上高}つ^{上高}る^{上高}也^{上高}西^{上高}次^{上高}の^{上高}代^{上高}あ^{上高}と^{上高}く
 六、^テく^{上高}當^{上高}麻^{上高}の^{上高}憂^{上高}は^{上高}お^{上高}の^{上高}謂^{上高}妻^{上高}市^{上高}如^{上高}浩^{上高}人
 七、^テ抑^{上高}此^{上高}當^{上高}麻^{上高}の^{上高}ま^{上高}ん^{上高}た^{上高}と^{上高}ヤ^{上高}人^{上高}仁^{上高}玉^{上高}四^{上高}十^{上高}七

一、^テ代^{上高}乃^{上高}帝^{上高}。癡^{上高}帝^{上高}天^{上高}皇^{上高}の^{上高}御^{上高}宇^{上高}加^{上高}と^{上高}よ^{上高}横^{上高}
 二、^テ萩^{上高}乃^{上高}右^{上高}大^{上高}臣^{上高}豊^{上高}成^{上高}と^{上高}ヤ^{上高}人^{上高}其^{上高}法^{上高}
 三、^テ息^{上高}女^{上高}中^{上高}將^{上高}姫^{上高}。此^{上高}と^{上高}よ^{上高}こ^{上高}も^{上高}り^{上高}給^{上高}ひ^{上高}給^{上高}
 四、^テ称^{上高}讚^{上高}降^{上高}去^{上高}經^{上高}毎^{上高}日^{上高}讚^{上高}誦^{上高}給^{上高}月^{上高}一^{上高}日^{上高}
 五、^テ甲^{上高}よ^{上高}誓^{上高}ひ^{上高}給^{上高}也^{上高}ね^{上高}ら^{上高}く^{上高}い^{上高}ふ^{上高}は^{上高}み^{上高}て^{上高}
 六、^テ兼^{上高}守^{上高}あ^{上高}り^{上高}て^{上高}我^{上高}は^{上高}降^{上高}ま^{上高}れ^{上高}た^{上高}り^{上高}ま^{上高}き^{上高}と
 七、^テ一^{上高}心^{上高}不^{上高}乱^{上高}の^{上高}親^{上高}念^{上高}し^{上高}給^{上高}よ^{上高}志^{上高}ら^{上高}く^{上高}人^{上高}の^{上高}畢

今と期として此の處より出ると誓ひて
 一向に念佛三昧の場より歸す
 阿の山陰の松吹風も涼くしてあ
 けの夏を思はせ妙の音も絶えぬ身
 をすまひよもまうらふ稱名親会の内
 かの上座禪田月夜寒のうら寒多と
 言打慈は一人の若居の忽と来る

方ひかり見はる人もの
 尋ねはるひよ若居を宣く
 報とあはれ農家や人の社多た
 上は信はる程の中將非のあはれ
 つ秋を誰とて呼と身たつ
 ぬ山平の書はるあはれ
 の言はる又はるあはれ

ちぎ給りしよしを我名あはせし
 志す人よ春わのど直へ姫君も扱へ此
 願成辨して正ふれは色如兼て又逆
 の時常よと感涙酌あつはは縹糸
 夜の時神もさすもつらふらふ
^{吉表} ちや賞さむ初めその教へると思
 ころまう有籠や ^{ヤラ} ころも二月

中の立目かへるも時々の可なりある
 法 ^{上地} 事 ^{ヤラ} たるあはれなるもさるる
 清 ^下 なる今へ行そつて其く
 人の位后仕女乃 ^地 夢中よきん
 春 ^下 わりしと ^地 ありあは ^地 ありて
 花 ^{ヤラ} あり ^下 是音 ^地 楽 ^下 あり ^下 あり

此の法は... 界に花嚴の眼の雲路より... 法輪の音聲の聽寶刹の身より... 蕭瑟とあつ瞳の心... 此の法は... 此の法は... 此の法は...

此の法は... 此の法は... 此の法は... 此の法は... 此の法は... 此の法は... 此の法は... 此の法は...

正徳六丙申歲弥生
 天保十一庚子歲孟春改正再校
 皇都二条通御幸町西江入町
 山本長兵衛
 右之本者觀世太夫織部
 章句真本令放行畢
 正徳六丙申歲弥生
 天保十一庚子歲孟春改正再校
 皇都二条通御幸町西江入町
 山本長兵衛

山本長兵衛

